

# 令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<b>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</b> 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切に作る心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	<b>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</b> 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	2項目とも肯定的評価の割合が80%を超えており、おおむね高い評価となっている。特に、職員の意識は2項目とも90%を超えており、概ね職員間で共通理解を持ち、教育活動に取り組んでいると判断しても差し支えない結果といえる。今後も子どもたちが学びを実感でき、主体的に授業に取り組む姿を研究していき、その成果を子どもたちの姿で保護者に伝えていけるようにしていきたい。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
<b>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</b> 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		保護者、教職員ともに8割以上が児童自ら考え行動していく力を育むための取り組みを行っていると考えており、肯定的な評価が高いが、児童の評価は「(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進」の項目の中でも一番低く、肯定的な評価の割合が6割弱程度となっている。児童が自ら考え、意見を出し合い、それを実践できる場を創り、学校生活や地域社会をよりよくするためにできることを実感させる工夫をしていくことで改善が見込まれると考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<b>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</b>		
学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていますか。	令和6年度と比較すると、個別最適な学びについての評価においては保護者は昨年とほぼ同様の結果であったが、児童、教職員の肯定的評価の割合は昨年より、減少している。逆に、協働的な学びについては、3者とも個別最適な学びの充実に関する評価と比較して、肯定的評価の割合が高く、本校の校内研修のテーマの成果が現れていると考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<b>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</b> 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	<b>7 インクルーシブ教育の推進</b> 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	授業づくりの研修や児童理解の研修の機会を持ちながら一人一人の学習支援を行った。そのため、教職員は肯定的回答が80%を占めている。一方、児童の肯定的回答がやや少なく、否定的回答も一定割合見られる。児童の評価が低い要因を把握するため、自由記述や教育相談を実施。安心感を高める取り組み(相談窓口の充実や学級内の交流活動の強化)を行う。認識差を縮める取り組みが必要と考える。

(3) 最適な教育環境の整備

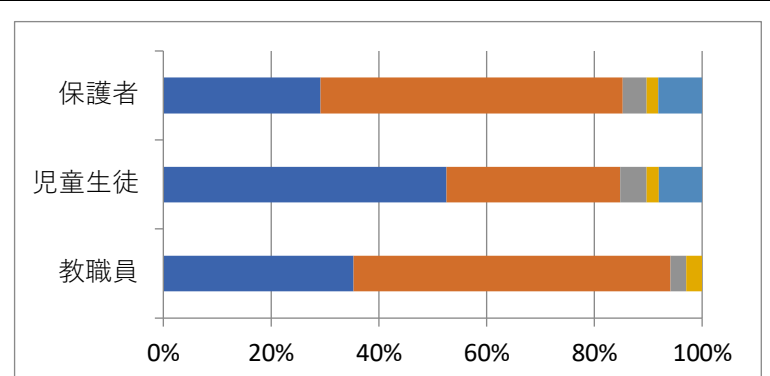
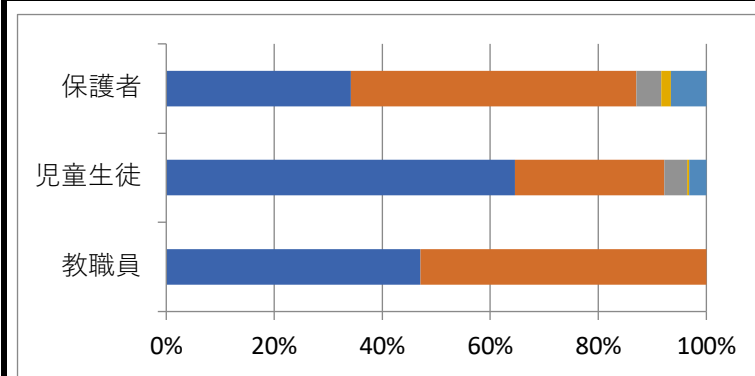
8 安全・安心な園づくりの推進

9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

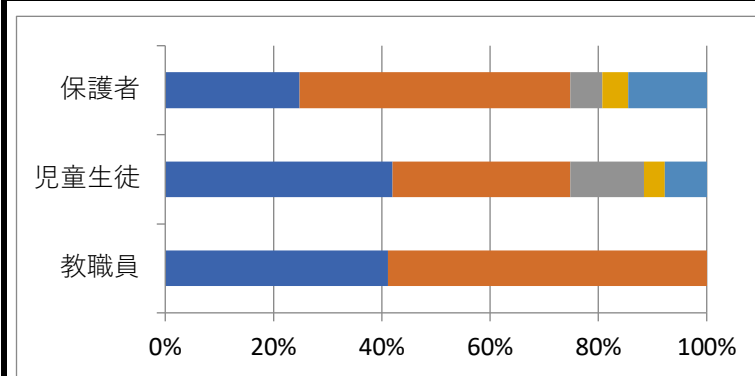
保護者・児童の安全に関する評価は昨年度とほぼ同程度である一方、教職員の「安全環境が整っている・安全教育ができています」という回答に十分とは言い切れないと感じている部分がある。改善策として、学年だよりで具体的な取り組みや成果を紹介し、成果や変容を伝えていくこと、校内掲示を行い、安全目標について、子どもたちにわかりやすく周知するなどの工夫が求められる。



(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。



令和6年度と比較しても、3者とも同じような割合の回答がみられた。教職員の意識は高いものの、保護者、児童ともに「そう思わない」と感じている割合が多い。また、わからないと回答している割合も少なくない。児童の意見や重いを授業や学級経営に反映させたり、様々な意見を取り入れたりするようにしていく必要がある。また、校則の見直し等を行う意義や方法を保護者に知らせる工夫が必要である。

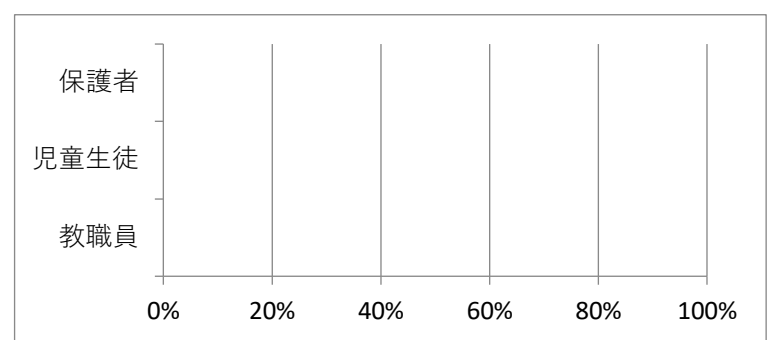
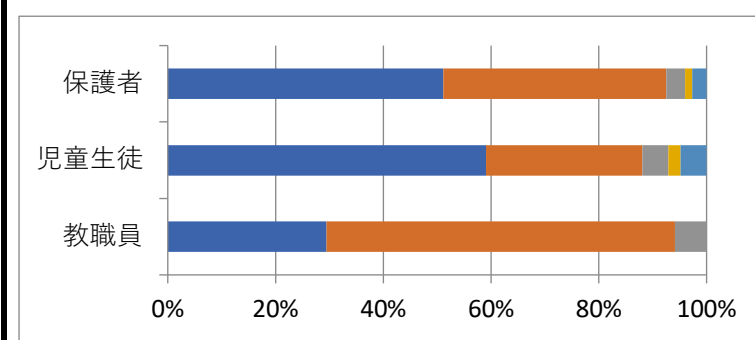
(5) 本校の教育

自ら進んで行動する子どもの育成（志高く）

独自項目2

子どもは進んで学校行事に参加していると思いますか。

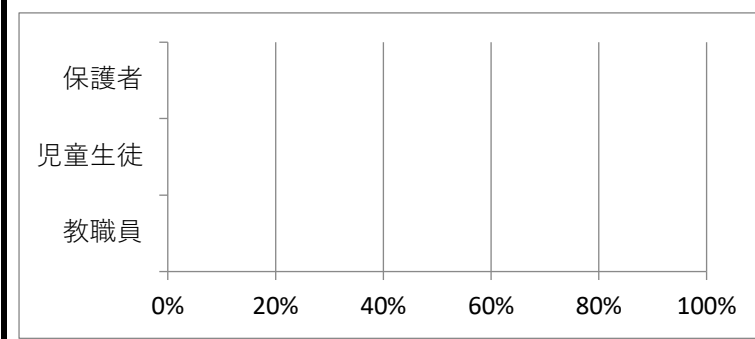
0



保護者、児童生徒、教職員ともに肯定的評価の割合が8割を超えており、おおむね達成されている。保護者の10%は「わからない」と回答しているため、その割合を下げる取り組みをしていきたい。子どもたちの姿を通信や学校HPでより、多く伝えていく必要がある。

独自項目3

0



来年度の具体的な取組について

- (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進  
職員の肯定的評価の割合が最も低い項目の一つでもあり、本校の課題として浮き彫りになっている。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという学習指導要領の理念に基づき、学びを実生活につなげる取り組みを工夫していく必要がある。生活科や総合的な学習の時間などに地域の方と関わる機会を設定し、発達段階に応じて地域の生活に目を向けていく機会を作っていく。
- (2) こども一人一人を尊重した教育の推進  
対話を通じた協働的な学びについては、3者とも肯定的評価の割合が高く、校内研修での取り組みが成果として表れていると考えられる。しかし、個別最適な学びの進め方については、3者とも肯定的評価の割合が少ない。具体的なイメージを職員間で共有し、校内研修を通して新しい学びの進め方を研究していく必要がある。
- (3) 最適な教育環境の整備  
今年度の学校評価については483家庭中465家庭からの回答（回答率96.27%）があっており、本校の教育に関する関心は高いと考えられる。今後もPTAや家庭、地域と連携した学校運営を行っていきたい。休日や放課後の時間帯の生活指導上の課題や交通事故も発生しており、家庭への啓発を行っていく必要がある。
- (4) こどものいのちと権利の養護  
校則の見直しについては現在の内容について全家庭に意見を聴取する機会を設定している。保護者にも校則見直しに向けた過程を伝えることで、保護者と児童の課題を共有していくとともに、見直しの意義について、理解を求めていく。
- (5) 本校の教育  
肯定的評価の割合が9割近い回答となっており、児童が進んで学校行事に参加している様子が家庭にも伝わっていると考えられる。引き続き、魅力ある学校づくりを進め、子どもたちが進んで学校行事に参加できる機会を作っていく。

## 小 中 学 校 関 係 者 評 価

- 評価項目が回答しやすいものとなっていてありがたかった。今後も回答しやすいアンケート形式で実施してほしい。
- 1学期は泣きながら登校してた児童が、最近は成長して元気に通っている姿を見かけると成長を感じる。朝からすれ違う時に立ち止まって挨拶をしてくれる子がいて、とてもうれしかった。
- ランドセルなどの持ち物に装飾品がたくさんついているので、本当に必要なものなのか検討していく必要があるのではないだろうか。
- 登下校時に寄り道をしている児童の様子を見かける。また、朝の登校時間が遅い児童がいるので、地域でも気を付けて見守っていく。
- すぐーを通して学校の様子を伝えてもらえるとありがたい。急な学校の予定変更があったときに、その情報を知れると、地域でも協力ができるので今後も情報提供をお願いしたい。